

随想

草の根護憲派総決起の刻（とき）

阿部敏勝（会員）

．はじめに

臨時国会がようやく開会しましたが自民党の要求により参院での首相所信演説がカットされるという憲政史上初の椿事となりました。日本の議会制民主主義は今や瀕死の重体です。

押し寄せる黒雲（くろくも） 改憲派軍団

「国民主権」「個人の尊厳」「不戦」「平和的生存権」を高らかに謳う日本国憲法は「天皇の元首化」「国防軍の創設」「国家機密」など戦前まがいの憲法を主張する自民党、たちあがれ日本、みんなの党、「9条に関する国民投票」を要求している日本維新の会「現行憲法の即時廃棄と核保有を含めた強力な武装国家を希求する」石原新党、などによって包囲されて居ります。野党時代は中庸を建て前にしておりました民主党の保守指向も例外ではありません。

．政治不信を憲法不信に転化する奴菲（やっばら）

どこの国でもあることですが内部の葛藤が高まると為政者はそれを他に転化しようとしみます。庶民も亦現実の厳しさや政治不信に負けてこれに乗り勝ちです。例えば本年9月に行われました毎日新聞の「憲法改正に関する世論調査」です。

憲法改正に賛成の率が前回の調査（09年9月）と較べて、7%も上昇して65%となり、逆に反対が5%減少して27%となりました。

又憲法改正論議の焦点である第9条についても改正賛成が56%、反対が37%となり、前回調査（賛成48%、反対43%）と較べて悪化しました。中でも憂慮に耐えないのは働き盛りの30代、40代、の人の改正賛成率が72%にも達していた事です。

激動する経済環境、社会環境の中で定見のないいわゆる浮動票が年代を問わず増えており改憲派の狙い目もそこにあります。

注1 . 読売新聞世論調査（本年3月）

憲法改正に賛成54% 反対30% 憲法9条改正に賛成39% 反対13%

注2 . 朝日新聞世論調査（本年4月）

憲法改正に賛成51% 反対29% 憲法9条改正に賛成30% 反対55%

・むすびー草の根護憲派総決起の刻（とき）

解散総選挙は本年末か、来春か、いずれにしても来年7月には参院議員の半数が、そして8月には衆院議員の全員が任期切れとなります。

そこで選挙の争点ですが前記の通り改憲派は「現状改善憲法改正」の図式で押してくると思われれます。問題は「9条」その他重要事項の扱い方です。敵はたぶん経済問題や領土問題、改憲問題をナショナリズムのムードで包んだ一括方式で来ると思いますが（石原新党の論理 小異を捨てて大同に付け一政策論議はあと廻し、戦前の大政翼賛会と同じ）

私たちは9条その他の矮小化を許してはなりません。併し国会の護憲勢力は社民党と共産党合わせても40名、定足数の1割にも足りません。労働組合の組織率もガタ落ちです。

かくて街には連帯感と目標を失った市民が増えるのです。私たちはもう一度まわりの人と膝を交え話し合う必要があるようす。全国に拡がる9条の会（平成11年秋現在 （7、5、82））の会員並びに護憲諸団体の会員各位、草の根護憲派の総決起を期待して已みません。

（以上）